

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500200
法人名	社会福祉法人 南十字福祉会
事業所名	グループホーム福岡
所在地	福岡県福津市738番地
自己評価作成日	令和5年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和5年12月26日	評価結果確定日	令和6年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの生活環境・性格・病状・ご意向・認知症症状に違いがある利用者様おひとりお一人を知り、寄り添いや受容を意識し、安心して過ごして頂ける環境作り・信頼関係作りを力を入れている。かかりつけ医との連携を強化し、生活状況・状態報告、状態変化時の早期相談を行っている。感染対策のため、ご家族様には利用者様の生活空間に入れない、面会が出来ない期間もまだ発生もあり、状況・状態報告を密に行うようにしている。毎月の施設だよりには、担当者と看護職員からの近況報告とともに、利用者様のお写真を同封し好評である。お姿を見て頂ける事がご家族様の安心材料となっているように感じる。感染対策の為外出が出来ない時期でも、畑での野菜・果物の収穫や、中庭で花見・お茶会・シャボン玉・BQQなど、広い敷地と自然・解放感を有効活用している。日替わりのサークル活動では、出来る事・出来ない事・やりたい・やりたくないなど、個々の向き不向きを発見し、かつ意欲向上・維持に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム福岡は、平成12年に福津市で初めて開設された歴史のある事業所である。自然に囲まれた丘陵地に位置し四季の移り変を肌で感じることができる。広大な敷地内には畑があり野菜や果物の収穫が一年中楽しめる。広々とした施設内にはソファやテーブルがたくさん設置され、入居者が自由に寛げる環境がある。コロナウィルスの感染状況に配慮しながらドライブや季節行事、畑の収穫、サークル活動など工夫を凝らしながら実施している。入居者の生活状況を担当者から家族にこまめに報告することで気軽に意見や要望を聴き取ることができている。出された意見は可能な限り反映できる取り組みがある。地域密着サービスの意義や役割に向き合い、原点に立ち戻り、現状にそった理念の見直しに取り組むなど柔軟な姿勢が伺える。これからも地域拠点としての活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所の理念がある。玄関と館内に掲示している。年を重ね認知症を発症されても尊厳を守り、出来る事を奪わず、笑顔を引き出せるよう、職員が意識した行動や言葉かけを行うよう伝達を行い実践している。	法人と事業所の理念がある。事業所独自の理念は職員全員で意見を出し合い、地域密着サービスの意義や役割を踏まえたものが掲げられている。法人理念と共に玄関と館内に掲示し、共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	COVID-19が5類相当に位置づけられても、直ぐに感染拡大し、以前のような交流ができていない。隣接農家の方からお野菜をいただいている。感染がやや治まった一時期に、中庭で地元宮司太鼓さんの演奏で賑わった。	コロナウィルスの感染状況に配慮しながら、地域交流を行っている。感染がやや治まった一時期に、地元宮司太鼓さんの演奏会で賑わっている。地域住民の畑で採れた野菜を頂いたり日頃から交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について広く福津市民に普及啓発活動を行うボランティア団体蓮華草に参加継続している。イオンでの認知症啓発イベントや学校・職場で認知症サポーター養成講座を開催する協力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は3回、運営推進会議を対面会議にて行った。9月は感染が拡大、事業所内でコロナ罹患利用者様が発生したため、資料を送付し書面会議とした。対面会議時には、活動や事故の報告を直接行ってご意見を頂いている。	2カ月に1回開催され入居者、入居者家族、民生委員や区長、市職員、包括支援センター職員、法人理事の参加を得ている。運営状況の報告や地域情報の共有を図ると共に、出された意見はサービス向上に活かしている。コロナウィルスの感染状況により対面と書面での会議を開催している。書面開催時には事前資料と議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ過で対面でなくとも、Webでの情報交換や連絡・相談などがスムーズに行えるようになった。認知症啓発活動団体「蓮華草」では市と連携し活動が再開している。	地域密着サービス事業所の連絡会、認知症啓発事業、運営推進会議を通じて日頃から協力関係が築けている。また運営推進会議に市職員が参加し、こまやかな情報共有と連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や日中の玄関施錠は行っていない。今後も身体拘束は行わない。身体拘束を行う必要性が発生しないような利用者様主体・尊厳ある生活の取り組みに日々努めている。	「身体拘束の適正化についての指針」や「身体拘束排除マニュアル」が整備されており、定期的に研修会を開催している。地域の研修会にも参加し、全職員が身体拘束の内容と弊害を共有認識ができ、身体拘束のないケアの実践に取り組む姿勢がうかがえる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待防止委員会を発足した。法人全員を対象に「全国老協弁護士動画」(1h)視聴後、アンケート・集計報告を行った。不適切な行動・対応・言葉遣いなど、グレーゾーン時の早期把握・修正に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の成年後見人制度研修会に参加している。また、「権利擁護」(8月)「成年後見人制度」(R6.1予定)の内部研修を、毎年行っている。令和4年度まで、成年後見人を利用していた利用者様が2名いた。	市主催の成年後見制度研修に参加したり、「権利擁護」「成年後見制度」の内部研修も毎年実施し、制度の理解・活用方法などを職員に理解して頂き活用につなげられるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約は、不安や疑問を抱えたままトラブルとならないよう、十分な説明を行い配慮している。契約改定時は一斉に文章で通知後、説明・確認を取って同意書の提出に繋げている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会も増え、ケアプラン更新時の説明に加えて、ご家族様に直接ご意見を伺える機会が増加。担当職員から直接状態報告が行え、ご意見・ご要望・新たな情報を頂いている。衣類や寝具の追加依頼時にご家族様に内容が分かりにくかったご指摘あり、新たにツールを作成した。	担当者から手紙や電話、面会時に家族に伝えることで何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。ケアプラン更新時に担当者から意向や意向を伺いプランに反映するようにしている。家族から出された意見や要望については担当を定め、可能な限り、必要な支援を行うようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回/年の自己評価を行い目標設定。その際、職員意向調査票にて取得予定資格・異動の希望・自由意見などを提出。可能な限り面談実施。また法人で若い世代の役職候補育成に取り組み、意見の吸い上げを目指している。	自己評価を年2回行い、職員意向調査票で取得したい資格や異動の希望など自由に意見を出して頂き面談を実施している。法人として若い世代の役職育成に取り組み、スキルアップの機会を設ける様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2回/年の自己評価を行い、主任評価、管理者評価と共に、コメントも記入して理事長へ提出している。勤務年数や年齢に関わらず向上心を備えている職員へ、画一的な給与体系とならないような配慮が見える。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	30歳代から70歳代の職員が勤務している。採用や異動で男性職員の割合が多い。個々の得意・不得意分野を把握し、持っている能力を発揮、または新しい分野に挑戦して頂く機会を設けるよう努めている。サークル担当の交代が功を奏する事も多い。職員の自由度(働き方・身だしなみ)を高める取り組みの提案が上がっている。	職員採用について性別・年齢を問わず、幅広く窓口を広げている。フォローアップ研修や、不得意な業務は職員同士で補うなど、職員が働きやすいように配慮されている。また職員一人ひとりの現状に応じた、勤務体制や部署の異動など働き方の提案を行うことで、その能力が十分に発揮できるように取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年権利擁護の内部研修を行っている。研修会の講師担当を毎年変更し、職員も学ぶ調べる機会としている。本年度は、虐待防止委員会での虐待事案の講義視聴とアンケート、集計結果の開示を行った。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を事業所内で実施している。また市職員を外部講師に迎え、高齢者虐待防止の研修会を開催したりなど、事業所だけでなく法人全体で取り組むことができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技量・力量を把握し、個人に合った研修参加を進めている。介護2年目職員に技術向上外部研修、中堅職員に感染オンデマンド研修・介護実践者研修などの受講を、管理者より理事長へ打診し、承認された。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部会議等へ積極的な参加を承認され、福津市ケアマネ会の再開や、蓮華草の対面会議やイベント開催で、同業者との交流が戻ってきた。地域包括支援センターとの関わりが毎年増えており、地域支えあい連絡カードやヘルプカードの情報をいち早く知った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報収集に力を入れている。ご家族様、ご本人様、前ケアマネ、サービス提供事業所などより、細かい情報提供を得ている。困っている事、不安な事、ご要望はもちろん、好きな事、お好みの物、出身地・職業などを知ることは早期信頼に繋がっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される事になられたご家族視点でのお困り事や、ご要望を十分に聞き出せるよう、何度もコンタクトを行っている。これまでの事を多く話される方が多く、傾聴・受容している。十分な初期対応がその後の信頼関係作り役に役立っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のご意向と入手した各情報を元に、暫定のケアプランを作成しご説明・確認を行っている。サービス提供開始後1Wは、現場職員より細部にわたる情報収集に努め、必要ならば新たなサービスの提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後のお茶碗洗いを傍について一緒に行う事で出来る方、トレーやテーブル拭きが出来る方、一緒に洗濯物を干して畳んで頂ける方などがいる。個々の役割を持って頂き、「ありがとう」を伝える場面を増やし、共同生活の継続に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の支援には個々の差がある。可能な限りご希望場面設定を行っている。夫の定期的な面会時に、認知症症状から素っ気ない態度を取られる利用者様には、職員が間に入り笑いある楽しい時間を過ごして頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過でご家族様との外出はや外食が出来ていない。親戚の方や知人の面会・電話などは継続。他県からお越しになれる事もある。ドライブで馴染みのある場所周辺では、とても喜ばれている。	コロナウィルス感染防止の為、家族との外出・外食は実施していない。時間制限を設けての面会や電話の取次は継続できている。馴染みの関係が途切れないよう、馴染みの場所へドライブで出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おしゃべり好きな方、話されるがつつまが合わない方、静かに過ごしたい方、相性など関係性を把握している。利用者様同士で楽しく過ごせ教えあうツール(歌詞・野菜・物・生活用品パズル)なども活用。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院先やご家族様と連絡を取り経過確認を行っている。ご家族様の不安は大きくなるため、新たな施設入所をご検討時には相談も受けている。再入所先に細やかな情報提供を行う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から得た新たな情報や、日頃の言動より得たご希望・ご意向を、必要に応じて伝言カードを使用して職員周知に努めている。表意困難な方も日頃のご様子や表情などよりご意向の把握に努めている。	日頃の介護の中での気づきや、家族・他機関(医療)からの新しい情報を「伝言カード」を作成し、全職員で周知している。また表情や言動から思いや意向を拾い上げようとする努力がうかがえる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入所前の情報収集に力を入れている。出身地・生活歴・ご家族、お仕事、介護サービス利用歴やご様子の把握を行っている、職員との会話や信頼関係に役立っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	力を入れている入所前の情報収集も、現状と差異があることが多く、現状把握やその周知に努めている。また、事前情報との違いも、伝言カードを活用している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のカンファレンスではご家族様参加頂き、ケアプラン実行表やモニタリングツールをもとに、また、老健OTからの助言もあり、現状に合わせた介護計画を作成している。参加できないご家族様には、カンファレンス前後にご要望を伺い、またご説明している。	ケアプラン居室担当、介護支援専門員、計画作成担当者と共同で作成している。本人、家族の意向を踏まえ、主治医や法人内の作業療法士の助言を得るなど、多くの関係者から意見を聞き取り、反映できるよう努めている。モニタリングやカンファレンスにより現状の把握と見直しの必要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実行表にて、毎日、重要または前回と変化あるサービスのチェックを行い、気づきは伝言カードで情報共有している。また、カンファレンス前に見直し事項発生時は、検討会報告書ツールにて実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や歯科受診は、訪問診療・往診を受けられる方、外来受診に行かれる方と選択していただいている。朝、なかなか起きれない利用者様は、1時間以上遅い時間の朝食となる事にも対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域商社いいざいより野菜を購入。10月には宮司太鼓を招き、演奏していただいた。長年かかりつけ医だった医療機関への受診継続や、馴染みのお店のお饅頭の差し入れなど受け付けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様・ご家族様のご意向にて決定している。外来受診の継続や訪問診療・往診への変更を希望される方がいる。各かかりつけ医へ状態報告・心身の変化報告など行っている。	かかりつけ医は入居前の医師のままでも可能であり、事業所に訪問する医師に依頼することもできる。入居時に本人、家族の意向を確認し決めている。また必要に応じて職員がかかりつけ医の受診同行し生活状況を書面で報告したりなど切れ目のない医療連携が図れている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は介護職と同じ生活空間で介護も実践しており、気付き・相談も直接伝える事ができており、アドバイスをもらう事も多い。受診の必要性などの判断を仰ぐこともある。かかりつけ医の看護師にも相談しやすい環境にある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後より、治療・リハビリ計画を確認し、ご本人様・ご家族様のご意向をもとに、早期退院に向けて、地域連携室などと情報交換を始めている。また、入院中に役立つようご本人様の細部にわたる情報提供を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が軽度の状態の時、またご家族様の生活状況に余裕のある時期に、早めに当事業所で対応可能な心身の状態の範囲や看取りを行っていない事を改めてお伝えしている。状態の悪化時に慌てないよう他事業所のお申し込み案内も行っている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、意向を確認している。状態変化に応じて、これからの生活について関係者で話し合い、共通認識を図るようにしている。看取りケアは行っていないが、利用者、家族の意向に寄り添い法人内及び外部の事業所への紹介を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度は、外部講師によるAED実践研修を行った。以前習得した内容と変わっている事項がある、AEDを用いて久しぶりの心肺蘇生では繰り返し訓練が必要との声が多かった。初めて訓練を受けた職員もいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を2回/年(日勤帯・夜勤帯想定)、地震・風水害訓練を1回/年実施している。コロナ過で、以前のような消防署署員の派遣は無いが、消火器・火災報知機の設置場所確認や避難方法など繰り返し行っている。	消防訓練を年2回、地震・風水害訓練を年1回実施している。消防訓練は夜間帯想定した訓練を実施している。地元消防団の参加を得て全職員が消火器・火災報知機の設置場所の確認・避難方法を繰り返し行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のお好きな事、嫌いな事を把握して、対応時に役立てている。居室の内鍵をかけられる利用者様には、鍵を開けて頂くように声掛けを行っている。トイレでの羞恥心を配慮し扉外で待機している事もある。	本人の生活歴や人物像を理解していくことを大切にし、誇りやプライバシーに配慮した関わりができています。馴れ合いにならない言葉使いや接遇など専門職としての意識の向上がうかがえる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの訴えが少ない方には、選択が可能な声掛けを心がけている。その方に合った声掛け方法や、言葉では表現不可能な方も、表情や動向からご意向を受け止める事が出来るよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の一人おひとりのペースはおおよそ把握しているが、その枠にはめ込んでしまわないよう、日々のコミュニケーションを大切にし、選択・ご意向を意識するよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容をご自分で出来ない方はもちろん、日々の身だしなみや衣類の組み合わせに気を配り、髪型やカラーのご希望を伺っている。エステサークルでスキンケア、イベントではお化粧なども実施している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立とし、食材はスーパーにて購入、野菜は地場産を配達してもらっている。畑で収穫された野菜の下処理を職員と一緒に、その日のメニューが変わることもある。患方巻きやスイーツ作りもイベントで、片付けは毎日一緒に行っている。	地元産にこだわった新鮮な食材を採り入れ、利用者の嗜好を踏まえた献立作りを行っている。オープンキッチンからは食材を切る音や匂いが伝わり、食欲を高めたり、食事への関心ももてている。食事の準備や後片付けを通して入居者の意欲を引き出す工夫がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を取入れ、栄養バランスを加味した献立となっている。食事量・水分量も日々記録し、体重管理も行っている。なかなか水分が入らない方には、時間やお飲み物を変え、必要量の摂取支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきを行って頂いている。歯みがきが不十分な方には、磨き仕上げを行い、歯みがき・うがい動作が理解できていない方には、声掛け・身振り・介助にて口腔ケアを行っている。歯科訪問診療あり。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時に、オムツや紙パンツを使用されている方でも、日中・夜間の排泄パターンを把握し、早めの支援で汚染減少している。尿意が無い方・自尿が無い方も、トイレで水の音を聞かや身振りで排泄に繋げている。現在オムツ使用者なし。	それぞれの排泄パターンを把握し、入居者に合った排泄介助を行っている。トイレに定時誘導したり回数を多くする等してトイレでの排泄が出来るように支援している。現在おむつの使用は無い。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、レクリエーション時のリズム体操を行っている。個別に立ち上がり訓練や段差昇降・館内歩行訓練運動も歌いながら行っている。お茶寒天を作り召し上がって頂く事もある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はあるが、入浴拒否の可能性のある方の対応に努力している。気の合う方と一緒に誘導行ったり、誘導前に職員との会話を盛り上げる・立ち上がられたタイミングを見計らうなど。浴室に季節感のある装飾も行っている。橙や柚子を入れ楽しんで頂く事もある。	大浴場と個浴が設備され希望に応じて使い分けられている。週3回の入浴が基本であるが、状況に応じて入浴回数を増やしたりなど柔軟な支援が行われている。手作りの四季折々の装飾や橙や柚子を入れ入浴を楽しんでもらえる工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早めに休まれる方、遅くまでテレビを見られる方とお一人おひとり習慣に差がある事を把握している。日中の休息や、他の方より遅い起床時間にも対応している。寝具は1回/10日洗濯し、気温に適したものを準備していただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧は直ぐに確認できる場所に保管している。処方変更時は看護職員が伝達カードに変更目的や症状の変化予測や副作用の注意を明記して周知させている。薬局との連携が進み新たな情報も得ている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶碗洗い・拭き、洗濯物干し・畳みなど、毎日の役割だと張り切って行っている。お好みの和菓子をご家族様が差し入れ、気分転換に畑へ散歩に行かれる、日記を書かれる、サークルでの物づくりやパズルゲームなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前のようにご家族や職員と外食する事や、ご家族様参加で一日旅行に出かける事は出来なかった。本年度は、桜の時期に畑や玄関前で花見&お茶会や、馴染みの町のドライブなどは開始した。気候が良い時期は風や太陽を感じる戸外レクを重視した。	コロナ対策の為、以前のような家族参加型の外出は行われていないが、施設前の畑や玄関前で花見やお茶会を開いている。馴染みの町へドライブに行き天気の良い日は広大な敷地内にある畑で菜園づくりに励んだり散歩に出かけるなど、外出支援が行えている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各お預かり金を事務所で管理している。お金の心配をされる方もあり、ご家族様ご了承のもと、お財布を所持していただく事もあるが、コロナ過で自らお支払いをされる場面はなかった。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。ご本人様に届く手紙もよくある。職員と一緒にお返事を書き投函する事もあり。最近はビデオ通話で戸惑い無く楽しめる方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いスペースと解放感を活かし、決まったテーブル席以外の共有の場所でもイスやソファでくつろいでいただけている。季節感のある壁飾りや利用者様と一緒に作成した作品、毎月実施しているイベントのお写真を入れ替わりで貼っている。	開放感のある広い共有空間にはテーブルやソファがたくさんあり、入居者が自由に寛げる環境がある。観光馬車乗車やドライブ・外食に出かけた写真が多く飾られ、写真を見て出かけた事を思い起こすきっかけや話題作りにもなっている。リビングを囲む大きな窓から見える中庭は季節の移り変わりを楽しめる場所になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、くつろいで頂けるようイスやソファがあり、自由に過ごして頂ける。仲の良いお二人でおしゃべりをされたり、お一人で日向ぼっこをされている。静かに過ごされたい方は、部屋の端にあるソファが定位置となったこともある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンスやテーブルの持ち込みあり。ご自分で衣類を選びやすい・出し入れしやすいように、ハンガーにかけられる種類を限定するなど工夫をしている。家族写真やお人形などを飾られる方もいる。	広々とした居室内は、使い慣れた筆筒やテーブル、アルバムやお気に入りの人形など、馴染みのものや思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの入居者の居心地の良さを配慮している。全居室にはトイレと洗面所が設置されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル席のご自身のイスは、その方に合った高さや座面クッションを使用している。トイレからの立ち上がり可能な場所に新たにすりを設置した。浴室着脱室を滑りにくい床材にしたことで、安全に移動して頂けるようにした。		